

つどい

第 6 号

大 代 公 民 館

昭和47年 8 月 10 日発行

大田市民の 指 標

この市民憲章は大田市の将来の理想線であり、市民自身の生活目標であります。大田市民である私たちは日常生活に、その精神を生かしてゆくため、第一号に重ねて本号に更めて掲載して認識と自覚を新たにしたいと思います。

大田市民憲章

- 自然に親しみ 健康で明るいまちをつくりましょう
1. 山や海街や川をきれいにしましょう
 2. 花を作り木を植え緑のまちにしましょう
 3. 体育に新しき健康な体をつくろう
- 工夫をこらして産業に励み手をたずさえて豊かなまちをつくりましょう
1. 労働にまごころを持ち元気に働こう
 2. 産業に新しい工夫をとりいれよう
 3. 明るく職場づくりにつとめよう

きまりを守り よい風習をつちかい 住みよいまちをつくりましょう。

1. 交通事故をふせごう
2. 生活のむだをはぶごう
3. 会合の時刻を守ろう
4. 公共物を大切にしよう

教育をたかめ 情操を深め文化のまちを育てよう

1. 読書につとめよう
2. 郷土の歴史を知ろう
3. 文化財を大切にしよう
4. 芸術文化の活動をすすめよう

老人の福祉をすすめ 子供の希望をのびす あたにかいまちをつくりましょう

1. 老人の健康を守ろう
2. 老人のいきいこの場と活動の場をひろげよう
3. 子供の集団活動を育てよう
4. 家庭教育を重んじ自覚と責任感のあるつよい子どもを育てよう

三瓶山を仰ぎ 山陰独特のあおい澄んだ海と きれいな 所謂おいしい空気に つつまれた大自然の中に生活している私たちは 都会人の持たぬものを持っていて ことをよろこび且ほこりとしたいものです。

大田市教育長の岩谷界蔵氏は、社会教育を進めてゆく スローガンとして

◎教えることは 人びとと共に学ぶことである。

社会教育の姿勢

◎人づくりを ぬきにした地域づくりはありえない

社会教育の性格

一人の百歩よりも 百人の一步を目ざすべきである

社会教育のねらい

このように提唱していられます。吟味したいことばだと思います。と同時に教育という道の幅と長さの大きいこと、重いことを痛感させられます。

この一点

自分のものは大切にすることが他人の物や公共物は大切にしない。これが日本人の欠点だと云われている。

汽車で旅をすると車内をよこさぬよう 弁当や飲み物のカンは一定の捨場へ入れるよう車内放送で呼びかける。乗客は子供ではなくて立派な服装をした大人たちである。なのに終着駅近くになると車内はゴミ捨て場に変わっている。

公共の建物での会合の後を見ると 紙くず 煙草の吸がら マッチ棒 よごれた吸がら入れが散乱していることがよくある。自分の家だったら どうだろうかと愛情という肌ざわりの良い言葉がある。男女間の感情だけに使われるものではなく、人と人とのふれ合う大切な心のあり方をも意味

するものである。相手の立場に自分を おいて考える心づかいをも意味するものと解釈出来る。

観光地にゴミが散乱するのも 運動会のあとにゴミの山が出来るのも 愛情が欠けているからである。管理する人の気持ちを考えたら こんな無責任なこと

は出来ないであろう。大代中学生が大代をいつかきれいに と願って「O'D」運動をしている。

郷土を愛する純真な彼らのねがいを ふみにじらないよう心がけたい。

私たち大人が公共物に対する愛情を失った生活をすれば、次代を継ぐ青少年が同じ行動をすることは明白である。そうなれば、いつまで経っても公德心に欠けた国民という汚名はぬぐい去られぬであろう。静かに考えたいことである。

連絡所だより

先般はひどい水害で当町にも大きな被害が出ました。降雨量五五〇耗 消防団員も徹夜で警戒に当り避難を勧告する等 献身的な活動はめざましいものでありました。

家屋の被害

山 17戸
山 がけくずれ 58ヶ所

道路崩壊及護岸の被害

125ヶ所

水田の流失及土砂流入

178ヶ所

つゆ明けの豪雨は大きな爪あとを残し 猛暑にかわりました。この水害を 町民相互のたすけ合いにより 一日も早い復旧を念願して止みません。

公民館近況

社会情勢の変動 住民の学習(教育)要求が多様化し高度化して来たこと。こ

れに対応し得る 公民館活動を展開するため四月より市内全公民館の機構が改革され 中央、ブロックセンター、地区公民館の三段階に組織化されることになりました。

従来の公民館運営審議会が廃止され 全市一体の統合された大田市公民館運営審議会(20名)が設けられ、地区公民館には運営協議会が置かれることになり、公民館の運営費は 住民負担による 自主財源によって充当することになりました。今後、物心両面にわたって御協力を頂きますようお願い申し上げます。

社会教育活動のため長期に亘り運営審議会として文字通り献身的に協力して下さいました。今田保寿、浪 昌雄、日向重守、尾崎三枝子、荒本幸子、曾田梅蔵、鎌田美登(次頁へ続く)

美しく老いる

平均寿命はまたのびたけれど中身が大切で「美しく老いる」ことはなかなかむずかしい」と新聞にございました。

一、大代婦人会の構成

20代(8) 30代(35) 40代(115)
50代(67) 60代(70代)(30) 総員(255)
役員(45) 平均年齢47才

二、地域婦人会の活動目標

①親睦 ②学習 ③奉仕

三、婦人の生活とつての

現代の特徴 ①中高年齢層が働く ②情報化時代

③消費生活の時代 ④婦人の生活時間の変化

四、のぞましい主婦の姿

①常に子供のよき相談相手になり ②健康で ③いつまでも若々しく ④料理に心を配り ⑤金と時間を切り盛り上手に ⑥最良の主人の理解者として ⑦仲よ

く「よい家庭建設を

現代の社会状況下、三の様
に影響を直接間接に受ける
婦人の団体である婦人会は
今一度、二の①②③につい
て再確認せよとのこと

年令的 職業的に仲よく

地域婦人会らしい様相に幸
福感を持つ私達の会は今年
も親睦をモットーに役員会
行事 公民館活動参加を
それに集中しそれが自然に

学習 奉仕 につながる様

工夫 日々反省のよすがと
しては2月の学習より 四
の七項目をあげました。

魅力 個人のそれは人に

頼ることも出来ず 一朝一
夕になるものでもなくその
人独自のものであると同様
によく既成のものでもなけ

れはならない様に云々され

る婦人会の魅力もみんなぞ
醸し出そうとする努力によ
って大代独特のものが?

20く70の各代それぞれを知

恵と力を出し合って 女の

顔をつくりつつ 少しでも
世間のお役にと願うところ
に ジェーンに「ケルもので
は? 過疎の風は厳しくと
も いつも一室に会するこ
とはできずとも

サンサンと太陽のそそぐ

広場でみんなぞ考え共に行
動する姿にも似た仲間意識
と老後までの希望で睦み合
い 大代地域婦人会の光明
をともし続けましては如何
でございましょうか、どう
ぞ忌憚なき御意見により御
鞭撻下さいませ。

婦人会長 花田幹子

水害 御見舞申 暑中 仕上げます

大代公民館

大代連絡所

社協大代支部

社協大代支部

(前頁段より)の方々が勇退

されました。尊いご功績に
対し厚く御礼を申し上げます
後一層の御協力を頂きます
よう願ひ上げます。

上記の如く改革された公

民館の運営委員として協力
頂く方々は 原田英夫、渡
敏昭、谷口通雄、藤井 博、
赤脇司郎、木村吉男、尾崎
義徳、山根正三(委員長)

水村頌三、大畑実秀、花田

幹子、武田絹枝(以上議席
順)さんら12名で第一回協
議会を開き事業計画を中心
に積極的な心構えを示して
頂き、公民館活動が時代に
応じた在り方で展開出来る
心強いものを感じました。

水のシリーズ

ントなり

ました

子ともをすこやかに。

水の事故から

守りましょう



社協だより

社会福祉協議会大代支部へ香典返しにかえ 次の方々より、ご寄付を頂きまし
た。ここに掲載し厚く御礼
申し上げます。

- 八反田 曾田梅蔵殿
- 上市 武田マツ殿
- 川上 武田 勲殿
- 植松 山内典夫殿
- 本郷 小笠原ハツヨ殿
- 植松 和田定行殿
- 植松 渡 吉正殿
- 柿田 横手勝義殿

六月二十六日 大森 水
上 祖式 大代 四町合同
の民生児童委員の研修会を
浄土寺において開催しまし
た。現在忘れられようとし
ている 社会福祉について
市社協の藤井事務局長より
講義をうけ、当面の諸問題
について話し合いました。

九月十五日は老人の日で
国を挙げて敬老のおもいを
新にし、町ぐるみでこの日
を意義あるものにしたとい
思っています。

今の若い人もやがて老人
になるのです。まかぬ種は
はえぬ。老人も若い人も
互に敬い合い、いたわり合
う。心ぐみを作るよう、い
たしたいものです。

公民館だより

ママさんバレーボール教
室が指定され4月22日教養
より川崎主筆が派遣され開
講式に続いて市V協会の
山岡、大代中の山内両先生
指導で基本実技の講習を受
け、快い汗を流しました。
引き続き大田公民館主事
岩谷美恵子、一中教諭幸田
三重子、両氏の指導でフー
クダンスの指導を受け出席
し、男女七十余名の人達は

次回を楽しみながら十時頃
散会しました。

スポーツとレクリエーシ
ョンを通じ、町内各層のふ
れ合いを強め、明るい町づ
くりを目指して、この教室
をつづけますので、お繰り
合わせご出席下さいませ。

尾崎前会長の辞任に伴い
後任会長に花田幹子、副会
長に山根菊枝、武田絹枝さ
んが総会で選出されました
。公民館とタイアップして
婦人会の事業をおし進めよ
りよい町づくりを努力され
る意気ごみを感じます。

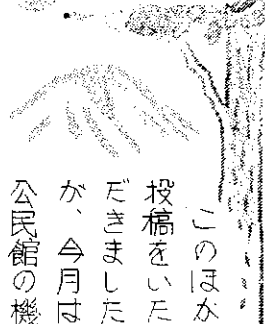
3月19日の第二回町民パ
レーボール大会で下市下谷
チームが第一回について連
続優勝し公民館杯を獲得し
ました。二位は植松八反田
Aチーム、三位山田本郷チ
ームと植松八反田Bチーム
でした。熱戦を展開し、参
加全チームに木村、延より

参加賞が贈られました。

五月五日こどもの日に公
民館で、こども会を開きま
した。花田会長をはじめ幹
部有志の方が自発的に協力
援助して下さいました。

思いがけないこの好意と、
熱意によって予想以上の衆
しい行事となり、幹部の方
たちは、母となり姉となつ
て子どもとおとなが完全
とけ合った、ほほえましい
場面もありました。

あとがき



このほか
投稿をいた
だきました
が、今月は
公民館の機
構改革、水害のお知らせ等
紙面の都合により割愛させ
て頂きました。
館報のあり方について、
皆さんの率直なご意見をお
聞かせ下さい。(編集部)